

川島浪速

浪速

志士。

慶應元年十一月七日信濃國松木生れ、昭和一

十四年六月十四日没（八六五—一九四九）。號風外、風外居士。明治八年舉

家上京、外國語學校に入り支那語を學ぶと中退。副島種彦、榎本武揚

等の組織した興亞會に入會し、白清野平は陸軍通譯官として臺灣に

従軍、勲功を揚げた。のち乃木臺灣總督の下へ阿片令施行官となり、

北清事變には瀋陽少將直屬通譯官に拔擢せられた。二十四年北京警務

總長に就任して總監督に就任、當時シベリアに居た「葉子」の教育

を務め、學堂の事務長として半年間在職してゐる。辛亥革命の折は清

皇族を擁護する京社黨を支持して清朝擁護運動を興し、また滿蒙獨

運動を劃策、のちの滿洲建國の下準備に當る。この期滿洲皇族親王

ビハヤ 普魯士親王、その第十四女（川島芳子）と養女としていたことは有名。

著書に『支那の病根』（大正十二年十月十八日宇治村敏編刊、城南莊

同人）、『時局微言』（昭和七年十月二十日政教社）、『川島風外明

心見道銘』（入江種矩・村井修編、昭和九年四月七日政教社）、『白

本及日本人の道』（昭和十一年二月一日會田勉刊）、自述『川島翁の

歩み』の道一は支那研究叢書本（半山雪鞋譯著、昭和十四年一月五日

長野・東洋學會清風學舎）等。

